



企業の真の価値をどう考え、どう伝えるべきか？

価値の可視化、その先の未来へ。

見えない価値を「型」にするVCDDフレームワーク

認識のギャップと、VCDDの誕生

企業が語る熱いストーリー（定性・ビジョン）

投資家が見る冷徹な数字（定量・評価）



2017年パリ・ユネスコ本誌（IC13）

企業が伝えたい「価値創造ストーリー」と、読者（投資家等）が抱く「印象・評価」の間には、深い断絶が存在します。
2017年7月、パリで開催された第13回世界知的資本会議（IC13）にて、勝山公雄氏がこのギャップを埋めるための
革新的なアプローチとして「統合報告書におけるVCDDツリー」を発表しました。

VCDD = Value Creation Driver Discovery（価値創造探索分析）

The Philosophy: 価値は「点」ではなく「つながり」にある

VCD合同会社の使命

データサイエンティストとしての知見を活かし、企業の「見えない価値」を探索・発見し、論理的な繋がりとして裏付けること。（2020年設立）

無数に存在するバラバラのKPIや非財務情報を、意味のある「価値創造のメカニズム」として昇華させます。



価値を構造化する「型」—— VCDDツリー



頂点: TOP指標 (最上位の目標・KGI)

枝葉: 1次、2次、3次要因 (プロセス・顧客・市場)

根: 定性的な要素・無形資産

バラバラに存在しているKPIの因果関係を計算・解決し、階層的に分解。価値の源泉から最終的な財務目標に至るプロセスを論理的な「木 (ツリー)」として可視化します。

価値の源泉を捉える「6 Capitals」

IIRC（国際統合報告評議会）が提唱する6つの資本をツリーの基盤に組み込み、「見えない資産」が企業の成長を支えるメカニズムを証明します。



財務資本
(Financial)



製造資本
(Manufactured)



知的資本
(Intellectual)



人的資本
(Human)



社会・関係資本
(Social/Relationship)



自然資本
(Natural)

The Design Code: ツリー構築の5つのポリシー

制約 / ルール	目的 / 効果
1. KGIの明確化	一点突破: ストーリーの柱となる最重要指標 (TOP) を頂点に置く。
2. 二択への絞り込み	厳選と集中: 上位に影響する指標は「2つ」のみ選ぶ (3つ以上に増やさない)。
3. 定性指標の活用	数値化の限界を超える: 数値化できない重要な要素も積極的に取り入れる。
4. MECEにこだわらない	網羅性よりストーリー: 「モレなくダブリなく」よりも、トップ指標へのアピールを優先する。
5. 定期的なメンテナンス	進化する生きた型: 戦略が大きく変わる際に構造を見直す。

Case Study: HONDA —

見えない強みは
いかに収益を生むか

最上位目標 (TOP) :
高い収益力
(High earning capacity)

「ホンダファン」の存在や、「新次元への挑戦心」といった目に見えない企業文化は、本当に最終的な収益 (KGI) へと結びついているのか? VCDDツリーによる構造解析がその答えを出します。

The Anatomy of Honda's Value: 価値創造の構造解析



第1層 (財務・市場側面)

第2層 (顧客・組織基盤)

第3層 (無形資産・プロセス)

Insight

人的・組織資本（ファン採用や挑戦心）が、顧客基盤を固め、最終的な価格設定力や収益へと連鎖するメカニズムを論理的に実証。

4 Dimensions of Application: 活用の広がり





VCDD 2.0 —「人間から機械へ (From Human to Machine)」

ビッグデータとAIの力を融合し、価値創造ストーリーは
「人が描くもの」から「AIが自動生成し、届けるもの」へと劇的な進化を遂げます。

AI Generation Pipeline: 自動生成のメカニズム



1. Data Lake (データレイクの構築)

外部公開文書やタグ付き数値データの膨大な蓄積。

2. Document to Vector (要素抽出とベクトル化)

AIが文書から意味（特徴ベクトル）や構造タグを定義し抽出。

3. Auto-Tree Construction (ツリーの自動構成)

KPI間の関連性を計算・解決し、特定テーマを起点にVCDDツリーを自動生成。

4. Auto-Report (レポートの自動出力)

既存レポートからの学習に基づき、目的に応じた最適な報告書をアウトプット。

Paradigm Shift: コミュニケーションの劇的变化

従来 (VCDD 1.0)



媒体：紙（統合報告書など）
スタイル：Pull型（読ませる）
ユーザー体験：ユーザーが自ら膨大なレポートの中に潜り込み、必要な情報を「探しに行く」。

未来 (VCDD 2.0)



媒体：デジタル / アプリ / 動画
スタイル：Push型（届ける）
ユーザー体験：AIがユーザーのニーズやコンテキストを学習し、最適なタイミングで最適な情報を「自動的に届ける」。

情報開示は「読ませる」から「最適なタイミングで届く」へ。

The Ultimate Goal: AIが支える「統合的思考」

意思決定の光
(Decision Insight)

財務 (Finance)

人事 (HR)

AI

開発 (Dev)

営業 (Sales)

VCDD 2.0の最終的な狙いは、単なるレポート作成の自動化ではありません。

AIがチェンジマネジメントの役割を担い、組織全体のバランスを俯瞰すること。

Integrated Thinking (統合的思考) を企業のインフラとして根付かせ、次世代の意思決定を強力に支援します。



見えない価値を探求し、データで証明し、 AIと共に未来へ届ける。

価値創造探索分析（VCDD）が、あなたの企業の次なるステージを切り拓きます。

VCD LLC.（VCD 合同会社）